





研究主題 **豊かに生きる力の育成**
～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 単元名 「ごみのしよりとその利用」

2 単元の目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや利用、市内外の人々の協力などに着目して、調査したり、地図などの資料を活用して調べたりしてまとめ、廃棄物処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、地域の人々の生活環境の維持と向上を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的な学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、廃棄物の減量のために、自分たちができることを考えようとする態度を養う。

3 本単元の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）

中学年の基礎的汎用的能力（夢4）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人や社会と かかわる力  【人間関係形成・ 社会形成能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の気持ちを理解し、協力して取り組もうとする力 ・ 自分の生活を支えている人がいることに気付く力 	①ごみ処理の仕組みや再利用の様子、市内外の人々の協力などを基に、ごみの処理や再利用に関わる事業が計画的に進められていること、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていること、生活環境の維持と向上を支えていることを理解している。	①ごみ処理の仕組みや再利用の様子から問いを見だし、ごみ処理や再利用の事業にみられる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の生活環境の維持・向上を関連付けている。	
自分を みつめる力  【自己理解・ 自己管理能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよいところを見付ける力 ・ よいと思うことを考え、すすんで取り組む力 			①日常生活から出る大量のごみと、その処理や再利用について関心をもち、問題解決の見通しをもって、主体的に問題を追究・解決しようとしている。
課題を やりぬく力  【課題対応能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもち、計画を立てて実行する力 ・ 自分の役割に責任をもってやり遂げる力 	②施設・設備等を調査したり、地図などの資料を活用したりして調べ、ごみ処理のための事業の様子を図表などにまとめている。		
次に つなげる力  【キャリア プランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の生活や学習を通して、働くことの楽しさを発見する力 ・ 学習と生活が将来の生き方に関係していることに気付く力 			②学習したことを基に、地域の人々の健康や生活環境を守るための法やきまりの大切さを考え、地域社会の一員として自分たちができることを考えたり、選択・判断したりしている。

※キャリア教育と関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

4 部会提案

(1) 児童の実態と単元観

学習問題を自分事として捉え、予想し、調べ、納得したことをまとめ、自分にできることを考えるという問題解決的な学習の流れで取り組んできている。

自分の考えをすすんで発表できる児童、資料や地図を見るのが好きな児童、知識が豊富な児童は、社会科への関心が高い。その一方で、「適切な資料が探せない」「資料や地図から事象が読み取れない」「分からない」という意識が先行し、難しい教科としてしまうことで、社会科への関心が薄い児童も見られる。思いはあっても、言語化することに困難を感じている児童もいる。そこで、調べる段階では、写真や映像資料を活用できるよう、「わたしたちの町田」の適切なページや、ウェブサイトを紹介した。また、考えを発表する際には話型を提示し、表現することへの支援とした。

本単元は、普段何気なく出しているごみの処理について、市が中心となって計画的・組織的に行っている事業と、ごみの減量、資源化の取組について学習していく。





生活に密着した教材であり、すでに分かっていること、見えていることもある。分かっていること、見えていないことを学習問題に据え、自分の目で確かめたり、インタビューしたりといった活動的な調べ方を織り交ぜながら、一つ一つの疑問を明らかにし、「学んで面白い」「ごみのことは自分でもどうにかしなくては」と考えられる児童を育てたい。この学びが終わった時、ごみに関して自分が果たす「役割」をつかみ取っていることを期待したい。

(2) 中学年の目指す児童像






役割 (role)

自分の「すてき」を役割の中で生かせる子ども

(3) 目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】:「自分たちの生活を支えてくれている人がいる」こと(=自分を取り巻く社会的な役割があること)を実感するために</p> <p>○自分のできるものと、自分ではできないことを明確にする学びのステップの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で出したごみは、ごみ箱に捨て、家庭でまとめられたごみは、収集車に持って行ってもらえるよう、家の前か、集積所に出す。(できること) 収集車で運ばれたごみを自分たちで処理することはない。(できないこと) <p>普段はあまり意識していないこと、自分たちの力ではできないことに着目させ、ごみの処理の行方を学ぶことにより、支えてくれる人がいるからこそ、今の生活環境が成り立っていると感じ取らせたい。</p> <p>○外部人材(町田市役所 3R推進課 ごみ環境に関わる出前授業)の活用</p> <p>本来なら、町田市が誇る最新の「バイオエネルギーセンター」を見学が望ましいが、距離的に難しい。そこで、いかに現実に近付けられる学びができるかを考え、市の事業である「ごみ環境の出前授業」を活用することにした。</p> <p>ごみ処理の歴史、ごみ処理の過程、処理に携わるスタッフの思い、バイオエネルギーセンターの概要、収集車の仕組み等を一つのパフォーマンスのようにまとめられており、子どもたちは実際のごみ処理の様子を体験的に学ぶことができると、期待している。</p>	<p>【夢4】</p>  
<p>【手だて2】:「今の自分にできること」(=自分の「すてき」を役割の中で生かす)を夢物語で終わらせないために</p> <p>○「何とかしなくては」と思わせる単元の導入の工夫</p> <p>日当たりに出す一人分のゴミの量は「大したことはない」と思っても、みんなが毎日出し続けていけば、大変な量になってしまうこと。家庭からのアンケート回答からも、1週間に40Lを超えるごみを出している世帯が7割を超えている事実等、自分たちを取り巻くごみの状況をつかませる導入を工夫し、切実感をもたせるようにした。</p> <p>○実現可能な範囲で「今の自分にできること」を考えさせるために</p> <p>「現段階で行っている3R」を家庭に事前調査した中で、多くの家庭で行われていることは汎用性があるものと捉え、「自分でできること」を考えるヒントとして用意した。(最低限の思考の保証)学習を経て、知識や思考が深まっているので「自分なり」の「できること」が具体的に考えられることを期待したい。本時での「今の自分にできること」が、実現可能な範囲で自分事として考えている表れであると捉えた。</p>	<p>【夢4】</p>  

5 指導計画 (全9時間)

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 基礎的・汎用的能力
学習課題をつかむ	1	ごみは生活の中でたくさん出されるものであることに興味をもつ。	○家庭から出るごみを調べることで、種類や量などの気付いたことや注意していることなどを共有する。	◆分別して出す意味について疑問をもたせる。 ◆家庭のプライバシーに配慮するため、ゴミ出しの様子についてはフォームによるアンケートを取り、学年としての傾向を把握しておく。	【主①】 
	2	日常生活から出るごみを振り返り、その処理について予想して学習問題を立てる。	○ごみが収集されていないとどんな問題が起こるか予想し、話し合う。 ○ごみ処理について疑問点を挙げ、学習問題を立てる。	◆ <u>集積所にごみが置いてある写真と回収後の写真を提示し、この間に何が行われているかに着目させる。</u>	【思・判・表①】 
調べる・考える	3、6は学級によって順番は流動的にしておく	ごみの収集の工夫や収集車について調べる。	○予想し、調べ、共有する。 ○調べた結果から、何のためにこのようなことをしているか、収集している人たちの思いについて考える。	◆ <u>収集の工夫として分かったことは、何のために行っているのか、働く人の身になって考えさせる。</u>	【知・技②】 
		燃やせるごみの処理について調べる。	○予想を共有し、調べる。 ○燃やした後の処理についても調べ、まとめる。	◆バイオエネルギーセンターの映像やパンフレット等、調べる活動を保障できる資料の準備を行う。 ◆燃やすことで電気を作る、エネルギーの有効活用についても触れる。	【知・技②】 
		燃やせないごみの処理について調べる。	○予想を共有し、調べる。 ○細かく処理する理由を考え、話し合う。	◆映像やパンフレット等、調べる活動を保障できる資料の準備を行う。	【知・技②】 

		燃やしたあとの灰、細かくされたもやせないごみの処理について調べる。	<p>○灰の処理の仕方を調べる。</p> <p>○二ツ塚処分場の存在を知る。</p> <p>○処分場では環境に配慮した仕組みでごみの処理が行われていることを知る。</p>	<p>◆エコセメントの提示</p> <p>◆処分場に関する映像・パンフレット等の資料を準備する。</p>	<p>【知・技②】</p> 
7		ごみ処理問題は先どうなっていくのか考え、市の解決に向けての取組を知る。	○ごみ出前授業を体験する。	◆ <u>ごみ収集の移り変わりや様々な人が関わって行われている結果、安心して安全な生活が送れていることに気付かせる。</u>	<p>【知・技②】</p> <p>【思・判・表①】</p> 
8		ごみの学習を生かして、自分にできることを考える。	○第7時の学習を踏まえて、自分にできること（小さな一歩でも続けられること）を設定する。	<p>◆これまでの学習で積み上げてきた「分かったこと」「自分にできること」を振り返る。</p> <p>◆実現可能な内容、持続可能な内容が設定できるよう、家庭からのアンケートも思考のヒントとして活用する。</p>	<p>【思・判・表②】</p>  
9 (本時)		ごみの学習を生かして、自分にできることを考える。	○前時に作成した「できることカード」を3Rの意味を考えながら分類したり、今の自分にできることを考えたりする。	<p>◆<u>3Rの意味、なぜ3Rが重要なのかを全体で確認してから、活動に入らせる。</u></p> <p>◆3Rの一つにはっきり線引きできないものが出てくる可能性についても触れる。</p>	<p>【主①】</p> 

※波線はキャリア教育の視点

6 本時の学習（9時間扱いの9時間目）


(1) 本時の目標

3Rの意味を明確にしながら、今の自分にできることを考えようとする態度を養う。

(2) キャリア教育の重点

◎3Rに分類し自分でできることを考える活動を通して、よいと思うことを考え、すすんで取り組む力を育む。【自己理解・自己管理能力】

(3) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時を振り返り、「できることカード」の内容を確認する。 2 本時のめあてを知る。 		○なぜ3Rが重要なのか、今後の日本の未来が危ういことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ごみの問題を解決するために、今の自分にできることを考えよう。 </div>			
展開 3 5分	<ol style="list-style-type: none"> 3 班で理由を伝え合いながら「できることカード」を3Rに分類する。 4 全体で共有する。 5 分類の中から、今の自分にできるものを選び、その理由や思いを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・出かける時、よくペットボトルを買うので水筒を持っていく。そうすることでペットボトルやラベル等のごみを減らせると思うからです。 ・給食で残る食べ物をできる限り減らせるように、みんなに呼びかけたい。 ・服を捨てずに、知り合いにあげて、繰り返し使ってもらうことで、ごみを出さないようにしたい。 	<p>【グループ】</p> <p>【全体】</p>	<p>○3Rの言葉、その意味について確認できるよう、黒板に掲示する。</p> <p>○分類の根拠を確認し合いながら活動を行えるよう言葉掛けをする。</p> <p>○それぞれの班のカードの分類の様子を学級で共有する。</p> <p>○<u>分類を終えて、改めてこれからの生活で自分に何ができそうか考えさせる。</u></p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>●今の自分にできることを考えようとしている。 【主①】</p>
まとめ 5分	<ol style="list-style-type: none"> 6 本時の学習を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。 		

※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

○ごみのしよりとその利用

ごみの問題を解決するために、今の自分にできることを考えよう。			今の自分にできること
リデュース	3R リユース	リサイクル	

8 実践を終えて

成果

- ・町田市役所 3R 推進課のごみ環境に関わる出前授業では、町田市のごみ処理の歴史や処理の方法を学ぶことができた。また、ごみ収集車にごみを運ぶ体験を行い、児童の力だけでは家庭から出たごみを最後まで処理することができないことやその生活を支えてくれている人の存在に気付いたことは「自己理解・自己管理能力」につながる。実際に働く人と触れ合い、仕事への思いや願いを理解するとともに、「人間関係形成・社会形成能力」を養うことができた。
- ・単元を通して、ごみを減らす取組は自分一人が続けるだけではなく、家族や友達などの周りに呼び掛けを行うことで、ごみを減らす力が大きくなることに気付くことができた。出掛ける時には水筒を持参したり、親が買い物をする時にはエコバックを持っていくことを呼び掛けたりするなど、自分にできることを探した。学級で考えを共有することで、自分なりのできることをより具体的に実現可能な範囲でごみを減らす方法を考えるとともに、今後の生活に活かそうとする「キャリアプランニング能力」の伸長につながった。
- ・学校生活の中でもごみを減らせる取組があることに気付き、給食を残すことも生ごみを増やす原因であり、残さず食べることと、おかわりをして残飯を少なくすることを意識する姿勢が見られた。

課題

- ・ごみの処理を学ぶ上で、町田市バイオエネルギーセンターの存在に気付いた児童がいた。直接現地へ行き見学したり、働いている人の話を聞いたりなどの活動を設けることで、児童の「人間関係形成・社会形成能力」をより養うことができたのではないかと感じる。町田市のごみを誰がどのようにして処理しているのかを児童が実感するためにも、より多くの手だてを講じていきたい。